

## talk! talk! talk! 女優・いとうあいこさん



女優

### いとうあいこさん

数々のドラマや映画、舞台などで活躍する女優・いとうあいこさん。京都が大好きな彼女の被写体は、もっぱら京都の風景だという。写真は自分の内面を写すパロメーターだと語り、写真による自己分析の結果もお話いただいた。さらなる成長を望み、夢を広げているいとうさんの写真トークをたっぷりお楽しみください。

#### プロフィール

いとうあいこ。1980年、神奈川県生まれ。1999年にCMでデビューし、その後多くのドラマやCM、また映画や舞台などで活躍している。

主な出演作に、ドラマ「爆竜戦隊アバレンジャー」（テレビ朝日系）「GO! GO! HEAVEN!」（テレビ東京系）「貞操問題」「スイートドリーム」（TBS系）「趣味悠々～デジタル一眼レフ 風景撮影術入門～」 「サラリーマンNEOシーズン2」（NHK）。

映画「爆竜戦隊アバレンジャーDELUXE」（諸田敏監督）「ウルトラマンメビウス&ウルトラ兄妹」（小中和哉監督）「伊賀の乱～拘束～」 （千葉誠治監督）など。

舞台に「ニューヨーク青春物語～アランとパティ～」 （竹邑類演出） 「MIKOSHI～美しい故郷へ～」 （高橋いさを演出） 「座頭市」（三池崇史演出）など。

舞台「夕～ゆう～」 （サタケミキオ演出）が6月18日～7月13日/新宿シアターサンモールで、7月19日～27日/大阪そごう劇場で公演予定。映画「ハッピーフライト」（矢口史靖監督）が秋公開予定。

## Beginning 出会い

### 旅行のおともに買ったカメラ 水没させた苦い思い出も.....

写真を始められたきっかけを教えてください。

4～5年前にすごくきれいな景色に出会ったんです。特に色の美しさに感動して、そのときに「これは写真に撮らなきゃ！」と強く思い、意識し出したのがきっかけです。そのあとちょうど旅行へ行く予定があったので、いい機会だと思ってコンパクトのデジタルカメラを買いました。

その旅行ではいい写真が撮れましたか？

いえ、旅先が広島のお城神社だったんですが、干潟にカメラを落としてしまったんです！ まだ3枚くらいしか撮っていませんでしたが、カメラがダメになってしまって.....。とても思い出深い旅行になりました（笑）。そういったこともあったので、今も水にはすごく気をつけています！

普段はどんな写真を撮られるのですか？

空や夕陽、朝日が好きなので、太陽が上がる時間帯や沈む時間帯の光を浴びた風景をよく撮ります。あと、日常以外のものに惹かれるので、旅先などお仕事で海外へ行った際に撮ることが多いです。特に私は京都が大好きで、京都旅行が趣味なんです。京都の写真はとても多いですね。

京都のこういったところが好きですか？

もともとお寺や神社、お城など日本の歴史ある建物が好きだったんです。高校生の頃、父親の持っていた織田信長の漫画を読んだのがきっかけで、歴史の面白さや地名やお寺の名前などに興味を持つようになったんです。京都を巡る前はお城巡りをしていたくらい。そういったペースはあったんですが、京都に行くようになった一番のきっかけは、以前ロンドンへ行ったときのことです。イギリスの方とお友だちになって、お互いの国のことを話していたんですが、私は日本のことをちゃんと説明できなかったんです。それで、もっと日本を知ろうと思うようになり、日本文化がたくさん残っている京都に興味を持ちました。日本の文化も体感できるし、歴史ある建物や場所が多いので奥が深く、行きだしたら夢中になってしまいましたね。京都の空気が私に合っている気がするんです。

いとうさんの京都の歩き方をぜひ教えてください。

とにかく早起きします！ 人気の観光地だけに、午後は人であふれるので、たとえばお寺へ行くとしたら一番乗りを目指して行動します。混んでいるお寺も好きなんですが、人がいないと自分の好きなように感じられるというか、お寺と私だけの世界を楽しめているですね。

京都ではこういった風景を撮られるのですか？

町並みやお寺や神社、それに京都を家族旅行している親子の風景など、物語性のある景色にも出会うのでそういった一場面を撮ることも多いです。お父さんがお子さんに「このお寺はこういう歴史があってね.....」と話していたことなどが写真を見返すと蘇ってきて、とても癒されるんです（笑）。あと、京都へは1年に何回か行くのでその度に季節が変わっているんですね。同じ場所へ行っても、景色が違うので移り変わりを写真に収めるのも楽しみのひとつです。

## Pleasure 楽しみ

### 撮りたいという気持ちを 大切に撮る

いとうさんは以前、一眼レフを学ぶという内容のNHKの番組にご出演されていたそうですが、きちんと勉強してみたいかでしたか？

そうですね、やはりプロの方にいろいろと教えていただいて、写真の面白さをより知ることができました。写真を始めた当初はなかなか思いどおりには撮れなくて、お城巡りをしていて、お城の写真をよく撮っていたんですが、ただの記録写真になってしまっていたんです。“ここにきました”で終わっている写真。でも、番組で学んでからは少しずつ撮りたい写真に近づいてきたように思います。

こういったことが一番勉強になりましたか？

きれいに撮るといふ基本的な技術はもちろんなんですが、撮りたいものを撮ればいいんだ！ということに気づけたことが大きかったです。私は結構考えてしまう方で、技術を教えていただくたびに何とかそれを活かさなきゃと思って、撮り方にばかり気をとられてしまっていたんです。だんだんと、本当に自分が撮りたいものが撮りにくくなっていったんだと思います。心がない写真というか。先生からは「あなたが本当に撮りたいと思って撮る写真と、そうでない写真は見て分かる。あなたの撮りたいと思うものを素直に撮った方がいいよ」と仰っていただいて。それで、「本当に撮りたいものを撮ろう！」という気持ちを撮影のときには一番に優先させるようになったんです。



なるほど、では今は気持ちを大切に撮っていらっしゃるんですね。そのほか撮影の際に心がけていることを教えてください。

撮りたいと思ってすぐにシャッターを切るのではなく、一度冷静になるようにしています。目の前の雄大な景色そのままを写真に収めることはできないから、どう撮り方をしたら今自分が感じている素晴らしい景色を写真に写せるのだろうと、ベストな視点をいろいろ探します。

撮った写真はどのように楽しんでいますか？

だいたいパソコンにためておくんですが、気に入ったものはプリントしてアルバムに入れてます。みんなに見てもらったりして、「いいところだね、私も行きたい」と言われるとすごく嬉しいです。あと、旅先では知らない方との出会いもたくさんあって、仲良くなってあとで写真を送ることも楽しみのひとつです。

私がひとりで京都を歩いていると、外国の方やおじいちゃんおばあちゃんが声をかけてくださって、一緒にまわりましようといわれることも多いですね。この間も龍安寺で石庭を眺めていたら、外国人の方に「コンニチハ」と話しかけられて、日本のことを紹介したり、お互いに写真を撮り合ったり、ご飯も一緒に食べて（笑）。それで後日メールでそのときの写真を送りました。

ロンドンで話せなかった日本のことを、今では伝えられているんですね。

そうですね。まだまだですが、以前に比べると大分日本のことを話せるようになったと思います。

## Photo's 作品紹介

京都大好き！ いたうさんが切りとった9枚の京都



京都の風景1



京都の風景2



京都の風景3



京都の風景4



京都の風景5



京都の風景6



京都の風景7



京都の風景8



京都の風景9

## Future これから

### ステップアップして 京都をこれからも撮り続けたい

写真の魅力を教えてください。

写真には、撮っている人の内面が写るといことですね。またNHKの番組の話になるんですが、一緒に生徒として出演されていたのが俳優の黒沢年男さんだったんです。同じテーマで撮っていても全然違う写真になるんです。黒沢さんの写真はとにかく大きい！という感じで、ダイナミック。人生が出ていると感じられる写真なんです。フレームから溢れ出しそうな躍動感があって、写真が生きている！と思いました。逆に私の写真はフレームの中に収まるう、収まるうとしている。写真の力はフレーム内で限界なんです。だから私も躍動感のある、心を動かされるような写真を撮りたいと思いました。ふたりの性格がそのまま出ているなというのをとても感じて、写真はそういった面がすごく面白いと思いましたね。

写真に表れるいとうさんの内面とは、どんなものだと思いますか？

基準や基本からはみ出すことができない性格なんです。多分、生真面目なんだと思います。それはそれで個性だからいいとは思いますが、黒沢さんの撮るような自由な写真にも惹かれるので、自分にも撮れたらなと思ったんです。

最近では自由な写真も撮れるようになりましたか？

そうですね。以前に比べて写真が変わってきました。多分、それまでは撮りたいと思っても、このスケールの大きな景色を写真に写せるわけがない！と思って撮るのをやめていた部分があったんですが、私が感じたものは写真に写るんだと分かったので、心のままに撮れるようになりました。それがいい方向に進んでいるんだと思います。

いろいろな経験をされて、写真との関わりかたも以前とは変わってきたいとうさんにとって、今写真はどのようなものだと感じていらっしゃいますか？

今の自分を撮れるものという感じです。自分の気持ちや状態が写るバロメーターみたいなもの。たとえば、撮りたいものが撮れている写真と、ただきれいに見せようと思って撮っている写真があって、その時は同じような感覚で撮っているんですが、のちのち見返すとその差に気がつくんです。撮ってよかったと思うのは、へたでも自分が撮りたいと思って撮った写真なんですよね。かっこつけてきれいに撮ろうと思って撮った写真は、その時はきれいに撮れたと思って、見返してみると「ああ、うわついていたな」「修行が足りなかったな」と感じるんです（笑）。

きれいに撮ろうと思ってしまうときは、どういった心理状況だと思われますか？

多分誰かの影響を受けたときとか、自分じゃなくてその人になるうとしているとき。本当の自分はどこかにいてしまっている状態だと思うんです。どこかで見たことのある写真、自分で撮ってない写真。撮りたいものが撮れているときは、きっと心も安定していて、自分も安定しているんです。写真は自分が投影されるものですね。

最後に、これから挑戦してみたいことを教えてください。

今使っているデジタルカメラが4年前に買ったものなので、そろそろ新しいカメラを買いたいなと思っています。そして、やっぱり京都をたくさん撮りたいですね（笑）！好きな土地にいと撮りたいものがたくさんわいてきますね。ほかにも、いろいろな国の「色」が撮りたいです。京都で撮れる色は日本の色。海外いったらその国の色があると思うので、その土地らしい色のある風景を撮りたいなと思っています。

そして、これからもどんどん自分の写真の幅を広げたいですね。もっと表現のバリエーションを増やして、ステップアップできるよう頑張りたいです。カメラの機能も4年前からかなり進歩していると思うので、新しいカメラに触れることもすごく楽しみです。夢が広がります。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。